

教育相談だより

発行責任者 大塚晴美
教育相談だより一月号

二年生も無事に修学旅行より帰還して、また学校に活気が戻りました。二年生がいない学校は、とても静かで、一言で言うと「寂しい」かぎりでした。

いるべき人がいるべき場所にいない……
こんなに寂しいことはありませんね。皆さんにも、いることが当たり前すぎて、いないことなんて考えられない人はいませんか？

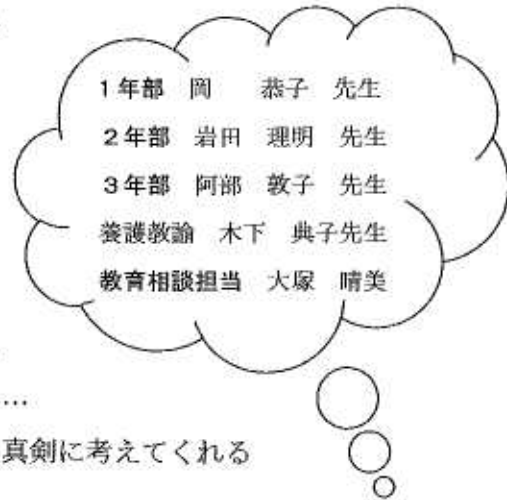
差し詰め、家族がそうでしょうか……。当たり前のように側にいて、たまには鬱陶しく感じる時もあり……

時には嫌なことも言いますが、自分のことを誰よりも真剣に考えてくれるかけがえのない存在。

そんな存在はなにより大切な宝物ではないでしょうか

楽しい時に側にいるのは、誰でもいいのです。

誰といっても楽しいことに代わりはないのですから……。けれど、本当に困ったとき、つらいとき、悲しいときに側にいてくれる人こそ、本当に大切にしたい人だと思います。肌のぬくもりを感じる距離にいる人との関係をもう一度確認してみませんか？



1年部 岡 恭子 先生
2年部 岩田 理明 先生
3年部 阿部 敦子 先生
養護教諭 木下 典子先生
教育相談担当 大塚 晴美

教育相談係

スクールカウンセラーの安達先生からお便りが届いています

「自分はどこに」

昨年7月、兵庫県のある高校の生徒会執行部の皆さんが、近隣24校1987人の高校生に「スマートフォンと高校生活」のテーマで、アンケート調査をしました。①スマホ②ケータイ(ガラケーというそうですが…)③どちらも所持の三つに分けたときの割合は、それぞれ①78%・②13%・③9%でした。

調査項目の一つに「気持ちの安定度、就寝時間、勉強への自信」とスマホ・ケータイ所持の関係を調べたものがありました。その結果は下表のとおりです。

この結果によると、よくイライラして、午前一時よりも遅く寝て、勉強に自信がないと自覚している人が、不所持→ケータイ→スマホの順に増加していることが分かります。

スマホ等を持ったからこのような生活になったのか、このような生活をする高校生がスマホ等を持つようになったのかはこの結果からだけでは不明ですが、どちらにしても相互関係はありそうです。

また、このアンケート調査をした高校生と大学生の座談会の記事には、次のような会話が載っていました。

LINEには『既読』の表示があって、それが点いているのに返事がなかなか来ないとイライラしたり、こちらも『既読』が点くと「すぐ返信しなきゃ」と焦ったりするそうです。「メールの頃の返信は3分ルール、LINEの今は2秒！」と冗談で言っていました。「そうそう！」と肯かれる人も多いことでしょう。

さて、この二つは、モノと他人に自分が支配されていることを示しています。スマホというモノに何時間も自分の時間を取られ、いつも気になることによって心も取られ、ついでに月に〇万円もお金を取られて。

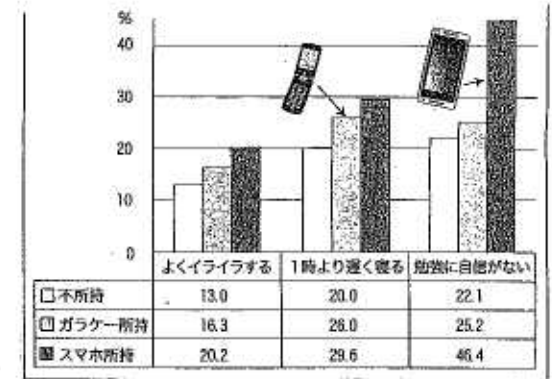
「すぐ返事をしなきゃ」と思うのは、その人のことを思っていることではなく、その人と自分の人間関係に支配されていることになります。

モノも人間関係も自分にとっては外部のものです。モノとは、本来は人の生活を便利にし、楽にするために人が作り出したものです。ところが、その物のために、逆に自分の時間や能力やお金を奉仕している人の姿が想像されます。人間関係も自分を離れた外部に存在する関係です。このように、人が自分を離れた外部のものに支配されている状態を「自己疎外」といいます。

モノやお金が豊富になり、情報が溢れ、人間関係が複雑になることによって、逆に現代人や先進国の人々が不幸になっていくということが言われることがありますが、その根底に自己疎外という現象があるのです。

スマホやゲーム、情報、モノ、そして大人になると賭け事に熱中しめり込むのも、現代社会における自己疎外の状況がより深刻になってきていることを示すのではないのでしょうか。

今の本当の自分は、自分のために何をしたいのか、一度よく考えてみましょう。



スマホ所持と心理状態や就寝時間、勉強への自信との関係

スクールカウンセラーの今後の予定 に変更ありません

あなたは今、一人で悩んでいませんか？

～スクールカウンセラーや教育相談係は、皆さんの声を聞く窓口です～

毎週木曜日に来校していただいております安達先生の予定日が、以下のようになります。

お話を聞いてもらおうと考えている人は、早めに予約してください。また、その日の朝にも毎回連絡します。

スクールカウンセラー 安達先生の今後の予定

- ・1月29日(水)
- ・2月 5日(水) ・12日(水) ・17日(月)
- ・2月24日(月) ・※27日(木) ※本年度最終